

尊光寺



本堂外観



彼岸会中日法要

三豊山尊光寺は、宗祖親鸞聖人の教えに基づき、浄土真宗本願寺派の教義を宣揚し、法要、儀式を勤め、宗学を研鑽し、当寺に所属する僧侶、門信徒、あらたな信者を教化育成し、よって公共の福祉に寄与することを目的として、富士見市恵光寺、仏教伝道協会に多大なるご支援をいただき平成十一年に坂戸市に建立されました。

坂戸市は、埼玉県のほぼ中央に位置し、地勢はおおむね平坦であり、秩父山系から清流として知られる高麗川が南西から東へ流れています。昔から交通の要衝に位置し、江戸時代には八王子から日光に至る街道の宿場町として繁栄していました。その後、肥沃な土地を活かした農業が盛んとなり、明治二十九年十二月に町制が施行されました。昭和二十九年七月には、坂戸町、三芳野村、勝呂村、入西村、大家村の五町村が合併して新生坂戸町となり、この後、人口は安定的に推移し、農業中心の町として順調な発展をとげてきました。昭和四十年代の後半には、都心から四十五キロメートル圏という利便性から、大規模な住宅団地などの相次ぐ開発で人口増加は著しくなり、昭和五十年から五十五年までの人口の伸びは、市の中で全国一となりました。そして、昭和五十一年九月一日に埼玉県で三十九番目、全国で六百四十四番目の市として坂戸市が誕生しました。市制施行時五万五千人であった人口は、都市化とともに増加し、平成十八年には、十万人都市の仲間入りをしました。しかし、本派寺院は坂戸市を含め鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、鳩山町など一か所もなく、散在する門信徒への教化育成も充分におこなわれていませんでした。

この様な状況下、当寺設立の前身である富士見市恵光寺住職成田了恵師により昭和六十三年三月に恵光寺坂戸分院が現在地坂戸市塚越にお念仏聞法の道場として開設、毎月十日に定例法話会が開催され、平成十年に浄土真

宗の教えを究極の拠り所とし、この不透明かつ不安な社会に、人々の苦悩と共に生き、全ての人々がお念仏の中、真実の幸せの中に生きていけるよう益々寺院活動活発にという願いの元恵光寺衆徒成田尊信が入寺させていただき、本派に於いては東京教区少年連盟副委員長、築地本願寺恒例二法要委員等、地域社会に於いては坂戸市小学校PTA会長四期、坂戸市社会教育委員、坂戸市地域福祉計画策定・推進委員二期、坊守は幼稚園後援会会長等を勤めさせていただいております。今後も念仏繁盛と地域社会の為に活動してまいります。

どうぞ、よろしく申し上げます。

主な行事

春秋彼岸会 永代経 (五月)

盂蘭盆会 (八月)

報恩講 (十一月)

定例法話会

子ども会